

人口減少対策を考えるワークショップ 主な意見①

江別まちなか仕事プラザの利用者等（令和6年8月28日）参加人数：6人

アクティブシニアが活躍できる街とは

- ご高齢になっても、仕事や趣味など自分の好きなことに取り組むことが元気の源になると思うが、一人で楽しむだけでなく、人と人との関わり合いを持ち続けることで、活躍先が増えていけば良い。
- アクティブシニアの方々の活躍先は、就労・仕事に限らないのではないかと。働くだけが人生ではない。
- 人口減少が進み、人手が不足するところにアクティブシニアの方々が上手くマッチしてくれると良い。
- シニア層だけ、若い世代だけなど、一つの世代だけが活躍するまちでは、これから立ち行かなくなると思うので、それぞれの世代が共に活躍できるようになることが重要ではないかと。

結婚・出産・子育ての希望がかなう街とは

- 子育てや育児に理解がある方・企業が増えて、パパ・ママも柔軟な働き方ができるよう、子育て世帯に対して社会全体がやさしく、寛容になってほしい。
- 子育て・育児でお休みをする職員のフォローを、経験豊富なシニア層が行うことも考えられる。
- 病児保育やファミリーサポートなど、気軽に相談したり使えたりする地域の子育てサービスが増えるとうい。
- 効率が重視される世の中になり、人生の楽しみ方も多様化してきていることなどから、結婚をしない選択をする人が増えることについては、ある程度、受容しないとならないのではないかと。
- 出会いの場、結婚の機会の創出に関しては、以前、江別市でも行っていた「街コン」を再開してはどうだろうか。

人口減少対策を考えるワークショップ 主な意見②

まちづくり関係団体（令和6年8月30日）参加人数：6人

多文化共生の社会を実現するためには

- 複数の外国語を翻訳できるデジタル端末を幅広く導入したり、看板や掲示にも複数の言語を記載したりする必要があると感じている。
- パキスタン国籍の方は、会社や職場で日本語や日本文化に触れる機会が多くないため、市の国際交流センターが実施する日本語教室に参加する方が少ないと感じている。
- 外国籍でも、子ども達は江別市の子ども達と遊びの輪が広がることで、日本語や日本文化への適応も早い。一方で、子ども達が、その家庭のケアラーになってしまう恐れもあるので、外国籍の家庭・子ども達へのサポートにも力をいれる必要がある。
- 外国の方の文化をお互いに知ること、少しずつ壁を低くしていかなければならない。そのためには、何よりも「知る機会」を増やしていくことが重要ではないだろうか。

10年後も活発な地域活動を維持していくためには

- 定年も延びて、70代まで休みなく働いた後に、すぐ地域・自治会・ボランティア活動で地域に携わっていただくということも難しいと思うため、好きな時に、空いた時間で気軽に「協働」に関わってほしい。
- ボランティア活動に対して、地域通貨などによる支援を強化するなど、地域活動を始める・続ける「きっかけ」を提供してはどうか。